

第

2

章



地域の  
特性と課題

1 松山市の環境

2 北条地域の特徴

## (1) 本市の特性

## ① 自然的特性

## ア. 位置・地勢

瀬戸内の温暖で穏やかな気候に恵まれた松山市は、広島県、山口県の県境に接する忽那諸島から高縄山系のすそ野を経て、重信川と石手川によって愛媛県のほぼ中央に形成された松山平野へと広がっています。

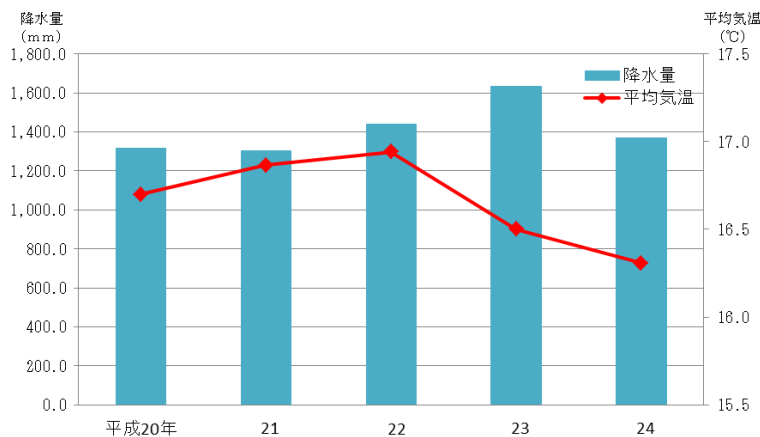
市役所の位置は東経 132 度 46 分、北緯 33 度 50 分にあります。市域は、東西 40.3 km、南北 42.9 km、面積は 429.06 km<sup>2</sup>です。水と緑に囲まれた良好な自然景観をベースに、「瀬戸内海国立公園」「奥道後玉川県立自然公園」「皿ヶ嶺連峰県立自然公園」が指定されています。また、石手寺から菅沢、高縄寺を通り北三方ヶ森までのルートなどが四国自然歩道(四国のみち)に指定されているなど、自然景観資源の活用が図られています。



## イ. 気象

本市の気候は、温暖な瀬戸内気候です。平成 24 年度の年間平均気温は 16.3℃、年間降水量は 1,369mm であり、6 月に多く、12 月に少ない夏雨型です。年間日照時間は約 1,901 時間であり、全国的にも日照時間が長い地域である瀬戸内海地域の特徴を表しています。

台風の通過も太平洋側の地域と比べると少なく、穏やかな気候条件ですが、全体に降水量は少なめで、積雪もごく少量のため、水不足の傾向があります。



松山の気象 (降水量・平均気温)

資料：松山市統計書

## ② 歴史的特性

松山には、約3万年前から人が住み始め、さらに稲作が伝わったことで定住化が進み、集落が形成されました。平安時代から室町時代にかけて活躍した河野氏は、12世紀後半には風早郡高縄山に城を築き、14世紀に湯築城（現在の道後）に移ったため、この頃から道後が政治や経済、文化の中心として栄えました。

慶長7（1602）年から、加藤嘉明が松山平野の中心にある勝山に松山城を築くとともに、新たな城下町を整備したことから、政治・経済の中心が道後から松山城下へ移りました。その後、松山藩主が蒲生忠知から、徳川幕府の親藩大名である松平定行となってからは、儒学や国学、能楽、俳諧、茶道などが盛んになるとともに、城下町として更なる発展を遂げました。

廃藩置県後の再編によって、明治6（1873）年に愛媛県が誕生し、松山に県庁が置かれることになりました。そして、「市制・町村制」公布の翌年、明治22（1889）年に全国で39番目の市として「松山市」が誕生しました。

昭和55（1980）年には、四国で初めての40万都市に、平成12（2000）年には中核市となり、さらに平成17（2005）年には、旧北条市と旧中島町を編入合併し、四国初の50万都市となりました。

そして現在、鹿島や高縄山などの豊かな自然に恵まれ、善応寺や櫛練り（かいねり）など、中世の歴史や文化が残る北条地域、また、多島美を誇り、かつては忽那水軍が活躍した悠久の歴史や奴振りなど、島独自の文化を育む中島地域が加わったことで、松山市の地域資源の多様性はますます広がっています。

## ③ 社会的特性

本市には、日本書紀にも登場する日本最古の温泉と言われる道後温泉や美しい姿を誇る松山城などの歴史的資源、新鮮な海の幸を使った伝統料理や日本三大餅の一つである伊予餅などの伝統的資源のほか、瀬戸内の風光明媚な景色など、多くの地域資源があります。そして、これらの豊かな資源を活用した観光関連の産業をはじめとするサービス業が盛んであり、さらに機械や繊維、化学などの製造業が集積するなど、愛媛県の県都、四国の中心都市として発展を続けてきました。

平成27（2014）年1月1日現在の人口・世帯数は、516,223人・231,805世帯で、これまで微増から横ばい傾向であった松山市の総人口は、今後徐々に減少し、平成34（2022）年には約50.0万人、平成42（2030）年には47.8万人程度になると見込まれています。

## (1) 計画区域の設定

本計画では、市内北条地域を計画区域として設定します。

その大きな理由は、北条地域が豊かな自然に恵まれ、独自の歴史・文化（社会的環境）が残されてきたことに加え、これらの地域資源を後世に引き継ぐためのコミュニティづくりがなされてきた地域であることを踏まえたものです。

### ① 北条地域の概要

北条地域は、善応寺や權練りなど、中世伊予の有力豪族である河野氏繁栄の足跡を色濃く残す歴史や文化を有しているほか、鹿島や高縄山などの豊かな自然に恵まれた魅力あふれる地域です。

松山市の北部に位置しており、東と北は今治市に接し西は瀬戸内海に向かって開けています。陸地部は正方形に近く、総面積は 102.13k㎡です。

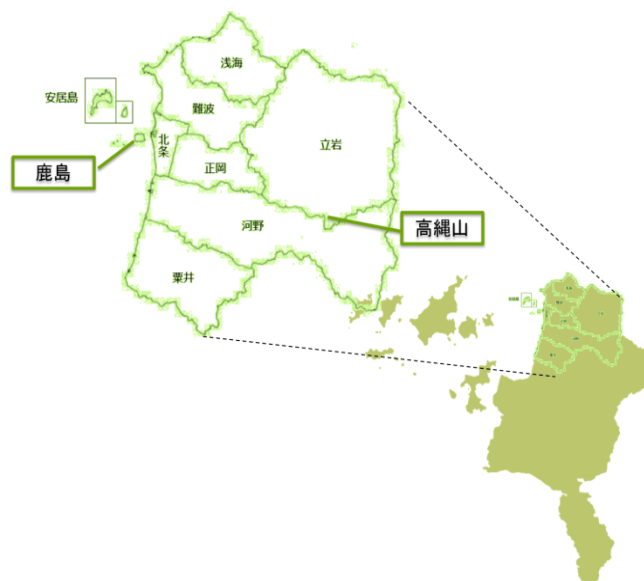
地形は標高 986m の高縄山を最高地点として東の山地から西の瀬戸内海に向かって傾斜し、

山地、丘陵、台地、低地に区分されます。地域の東側の山地から立岩川、河野川、高山川および粟井川等が並行して流れ、瀬戸内海に流れ込んでいます。

海岸線の延長は 16.9km に及び、東部の山林を背にこの海岸線に沿って細長い市街地が南北の帯状に形成され、その東端に位置する JR 予讃線が市街地と田園地帯を画しています。

温暖な瀬戸内海気候で、年間平均気温は約 16℃強と暖かく、年間降水量は 1,000mm 前後と少雨です。積雪や台風の通過も少なく、穏やかで恵まれた環境にありますが、雨が少ないため溜池がたくさんあります。

このように、北条地域は、誰もが里地・里山・里島の文化や緑豊かな自然環境に親しみ、保全活動に参加しやすい地域と言えます。



## (2) 北条地域の自然環境

### ① 自然環境

松山市は、高縄山系の山々や瀬戸内海に注ぐ石手川と重信川、多島美を感じさせる忽那諸島の島々など、豊かな自然に恵まれています。ブナ・ミズナラが茂る高縄山や北三方ヶ森などの標高1,000m前後の山地から、多くの水棲生物を育む石手川や重信川、数々の島、干潮時のみ現れる岩礁などに様々な生物が生息している忽那諸島まで、多様な自然環境のなかで動植物たちが息づいています。

「レッドデータブックまつやま 2012」の全掲載種は732種であり、「レッドデータブックまつやま 2002」よりも全掲載種が182種増加しました。この増加の主な要因は、合併により旧北条市の高縄山などの山岳および旧中島町の島嶼部に生息する希少種が追加されたことによるものです。しかし、工事などの人為的要因や、気候変動、外来種の拡大などによる生息環境の悪化も一因となっていると考えられます。

対象分類群	カテゴリー							合計	全種類
	絶滅		絶滅危惧			準絶滅危惧	情報不足		
	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅危惧Ⅱ類				
		ⅠA類	ⅠB類						
哺乳類	2	0	1		0	6	3	12	33
鳥類	0	0	8	10	16	18	7	59	0
爬虫類	0	0	2		2	5	1	10	17
両生類	0	0	4		3	1	0	8	14
淡水魚類	0	0	2	3	5	6	6	22	0
昆虫類	12	1	44		42	54	13	166	4,136
クモガタ類	0	0	0	0	0	5	1	6	0
多足類	0	0	0	0	0	0	4	4	0
海岸動物	0	0	4		1	8	1	15	171
				1					
海産貝類	2	0	2		0	9	1	14	574
陸・淡水産貝類	1	0	26		3	5	0	35	152
淡水産甲殻類	0	0	0	0	0	1	0	1	0
高等植物	32	0	55	81	46	19	100	333	32
高等菌類	1	0	14		17	5	10	47	522
合計	50	2	392			142	147	732	8,527

【レッドデータブックまつやま 2012】

## ② 鹿島

鹿島は、北条の西方海上 400m に浮かぶ周囲 1.5km、標高 113.8m の小さな島で、春は桜と新緑、夏は海水浴、そして冬の釣りなど四季を通じて楽しむことができます。

また、海岸沿いと山頂までの遊歩道があり、島の名の由来となった野生の鹿も見ることができ、昭和 31（1956）年 5 月に国立公園に指定され、別名「伊予の江の島」と呼ばれています。

島全体は老松・クスノキなど暖地性常緑照葉樹が繁茂し、約 260 種の植物があり、古来より野生鹿（県天然記念物）が住みつき、一部は柵を設けて保護飼育されています。

現在、シカの頭数増加による餌不足と思われる樹木や草本への食害が目立つようになり、また、林の裸地化等によって島の軟弱な地盤の風化を加速させるとともに、島内の生物多様性の再生が懸案となっています。



### ③ 高縄山

高縄山は、高縄山地を形成する標高 986m の山で、昭和 37（1962）年山頂付近一帯は、愛媛県の奥道後玉川県立自然公園に指定されています。

200m までの丘陵地には果樹園、中腹にはスギ、ヒノキの人工林が植えられています。800m 以上では、カエデやブナの自然林が見られ、秋には紅葉のスポットとなっている。県内では、海拔 1,000m 前後以上にブナ林が発達しており、ブナ林の観測スポットとして注目されています。

高縄山までは、登山道のほか山頂まで車で登ることができ、山頂からの眺望は壮大で、展望台からは来島海峡大橋や瀬戸内海の島々などをパノラマのように望めます。

リスなどの哺乳類や 600 種を超える植物が知られており、昆虫の宝庫でもあるとともに、野鳥の観察ができ、探鳥地のひとつでもあるなど、動植物にとっては、快適な環境が保たれているといえます。



鹿島



エヒメアヤメ



高縄山から臨む鹿島



高縄寺付近



鹿島のシカ



善応寺

### コラム③ 普及啓発物の作成(自然観察マップ等)



【鹿島・高縄山自然観察マップ】



【フィールドワーク用教材】

今後の生物多様性や自然環境に関する普及啓発につなげるため、北条地域のうち、鹿島と高縄山の自然観察マップを作成しました。

このマップには、地元の大学生が描くイラストやアイデアがたくさん盛り込まれており、イラストと見比べながら散策を楽しむことができます。

平成 26 年 11 月に小学生を対象とした自然探検ツアーを行い、道中の動植物について、自然観察マップを活用した散策のほか、子どもが集めた素材を使ったクラフトワーク、高縄山の動植物に着目した「生き物ビンゴゲーム」などを行いました。

自然観察マップは、より多くの人に鹿島や高縄山などの自然に興味をもってもらうためのツールの 1 つとなっています。

また、平成 26 年度末には、新たに鹿島全体を探検・調査し、ゲーム感覚で自然に親しむことのできるフィールドノートを作成しました。与えられたミッションをこなしていくと、鹿島の動植物のことが学べる仕組みになっており、今後、普及啓発教材として活用していく予定です。

